

■再評価

番号	事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性	事業の投資効率性 上段:前回評価時 下段:現時点	流域委員会等の 審議結果	
1	矢作川直轄河川 改修事業	愛知県豊田市、 岡崎市、安城 市、碧南市、西 尾市 等	平成21年度 ～令和20年度	約385億円 約465億円	流域関連市町村人口(8市2町2村)は、約140万人であり、製造業の発展に伴い、全体として増加傾向にある。 愛知県は全国1位の工業出荷額を有しており、その約半分を西三河地域が占めている。対全国シェアとしても7%を超える高い割合を占めている。 矢作川流域内は、東名高速道路、新東名高速道路、東海環状自動車道、一般国道1号、JR東海道新幹線、東海道本線等の重要な交通網が整備されている。	矢作川では、平成12年9月東海(恵南)豪雨規模の洪水を安全に流下させるため、豊田市区間の河道掘削、中下流部の堤防整備・堤防強化、河道掘削、樹木伐開を進めており、河川整備計画に計上されている事業の進捗率は、事業費ベースで約56%となっている。(参考:前回評価時の事業進捗率は約40%)	地元や関係機関と調整を行い、以下のとおり事業を実施していく。 ①【上流部(明治用水頭首工～鶴の首部)】河道掘削、樹木伐開を実施する。 ②【中流部(乙川合流点～明治用水頭首工)】堤防整備を実施する。 ③【中流部(矢作古川分派点～乙川合流点)】堤防整備、河道掘削、樹木伐開を実施する。	【コスト縮減】 ・河道掘削工事に発生した土の他工事への有効利用や、河道掘削時に発生する河川内樹木の伐採において無料配付による資源の有効利用、建設ICTの活用により、コスト縮減を図っている。 ・新たな知見、技術の進歩などの情報を収集し、適宜コスト縮減に向けた見直しを行う。 【代替案立案】 ・河川整備計画は、策定時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況を踏まえて代替案と比較した上で策定したものである。河川整備計画策定以降、流域における社会経済状況が大きく変化していないことから、河川整備計画における河川改修が最も適切であると考えられる。	【事業全体】 総便益B:16,856億円 総費用C:417億円 B/C=40.4 【事業全体】 総便益B:18,622億円 総費用C:628億円 B/C=29.6	【残事業】 総便益B:7,221億円 総費用C:193億円 B/C=37.4 【残事業】 総便益B:6,082億円 総費用C:191億円 B/C=31.8	継続
2	矢作川総合水系 環境整備事業	愛知県西尾市、 碧南市、豊田市	平成15年度 ～令和17年度	約31億円 約32億円	・沿川市人口は約124万人、世帯数は約50万世帯であり、増加傾向である。 ・「川と海のクリーン大作戦」への参加者は、令和4年・5年において2,500人を上回り、地域住民の河川環境に対する関心がうかがえる。また近年の河川利用者は年間110万人程度である。	【自然再生】 ・再生目標施工面積は、昭和40年代に存在していたヨシ原面積(約35ha)、干潟面積(約80ha)に対し、治水上の制約を踏まえ、ヨシ原約20ha、干潟約40haとした。 ・事業費ベースの進捗率は、令和5年度末時点で約63%であり、今後未実施箇所での整備を進める。 【水辺整備】 ・進捗率は令和5年度末事業費ベースで約65%であり、今後は右岸側の未整備区間において整備を実施していく。	・自然再生は、「矢作川自然再生検討会」で学識者、有識者からの意見を踏まえて進めるとともに、地域住民との協働によるヨシ植えを実施しており、地域と連携して進めている。 ・白浜水辺整備は、「矢作川河川環境活性化プラン」に基づき、まちと水辺が一体となった魅力ある空間づくりの検討を進めている。また、矢作川利用調整協議会等を実施し、地域の意見を取り入れながら、利活用の提案・検討を進めている。	【コスト縮減】 ・自然再生は、干潟再生の養浜材料として河道掘削やヨシ原再生による掘削土を利用することや、ヨシ原再生において地域協働によるヨシ植えを実施している。 ・水辺整備は、地元団体と連携した地域協働による樹木伐採・維持管理を実施している。 ・これにより、コスト縮減を図っている。	【事業全体】 総便益B:109億円 総費用C:38億円 B/C=2.9 【事業全体】 総便益B:97億円 総費用C:38億円 B/C=2.6	【残事業】 総便益B:43億円 総費用C:14億円 B/C=3.1 【残事業】 総便益B:25億円 総費用C:7億円 B/C=3.5	継続
3	狩野川総合水系 環境整備事業	静岡県清水町、 沼津市、伊豆の 国市	平成12年度 ～令和15年度	約17億円 約22億円	・狩野川沿川市町の人口は、近年概ね横ばいであるが、世帯数は増加傾向にある。 ・柿田川は国指定史跡名勝天然記念物として平成23年9月に登録され、平成28年6月には世界ジオパークとして登録された伊豆半島ジオパークのジオサイトとなっている。 ・柿田川のボランティアによる外来種駆除では、概ね年間500人以上が参加している。 ・神島地区水辺整備事業では、かわまちづくり事業として、川の駅「伊豆城山」の整備が進められ、令和5年10月から供用が開始された。	【自然再生事業】 ・柿田地区自然再生事業では、ミシマバイカモ(在来種)再生のため、オオカワヂシャ(外来種)の駆除等を継続する。 【水辺整備】 ・神島地区水辺整備事業の進捗率は、令和5年度末事業費ベースで約92%であり、今後はモニタリング等を行っていく。 ・上土地区水辺整備事業は、新規事業であり、今後「沼津狩野川かわまちづくり計画」に基づき、整備を進めていく。	・地域と連携した取り組みによって関係者と合意形成を図りながら進めているため、事業の実施にあたっての支障はない。(「柿田川自然再生検討会」「伊豆の国市・狩野川活用調整協議会」「沼津上土町周辺・狩野川活用調整協議会」)	【コスト縮減】 ・柿田川の外来種駆除において、ボランティア活動とともに実施 ・神島地区水辺整備において、Park-PFI制度を活用し、民間企業が指定管理者として整備と管理を実施	【事業全体】 総便益B:162億円 総費用C:32億円 B/C=5.1 【事業全体】 総便益B:157億円 総費用C:37億円 B/C=4.2	【残事業】 総便益B:31億円 総費用C:5.5億円 B/C=5.6 【残事業】 総便益B:39億円 総費用C:5.3億円 B/C=7.4	継続

